



# 木曽林務課だより 1月号

## 木曽青峰高校から「緑の募金」が寄せられました

12月22日、木曽青峰高校から「緑の募金」約3万3千円が、木曽郡緑化推進委員会に寄せられました。この募金は、木曽青峰高校森林環境科の環境福祉部に所属する生徒の皆さんが、文化祭などの学校行事の際に来校者の方に呼びかけて集めていただいた募金です。

当日は、同部に所属する1年生から3年生までの14人の皆さんが、顧問の植原先生と木曽合庁を訪れ、3年生で部長の森下恭兵さんから、木曽郡緑化推進委員会幹事長の松原林務課長に募金が手渡されました。今回寄せられた募金は、平成29年の募金として活用されます。

緑の募金は、毎年4月から5月にかけて、家庭、街頭、職場、企業、募金箱等で募金活動が行われています。寄せられた募金は、森林の整備、植樹祭、公共施設の緑化の推進、みどりの少年団活動、指導者の育成などに活用されています。

なお、平成28年には、木曽郡で約202万円の募金が寄せられました。

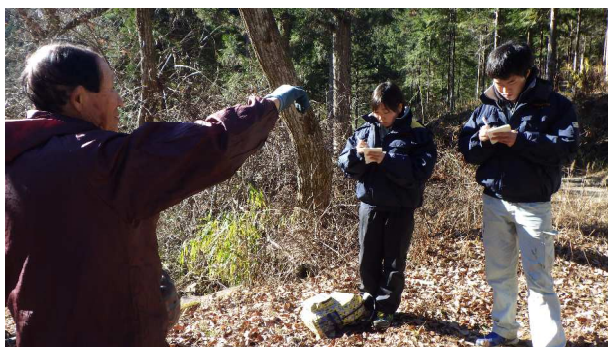


松原林務課長に募金を手渡す生徒さんたち

## インターンシップの受け入れをしました

平成28年12月12日（月）から16日（金）の一週間、長野県林業大学から2名の学生のインターンシップの受け入れをしました。お二人とも、林務課の仕事について真剣に学んでいました。林務係、普及林産係、治山林道係のそれぞれの事業などについて、様々な現場に出向き、たくさんの方のお話を聞き、学校だけでは得られない技術や知識を身につけていました。

最終日には、木曽地域の現地機関で運営している魅力発信ブログ「是より木曽路」に掲載するため、インターンシップの5日間のうちで印象に残った出来事を記事にさせていただきました。下記のURLから、ぜひご覧ください。



<ブログはこちらから>

是より木曽路URL

<http://blog.nagano-ken.jp/kiso/>



長野県PRキャラクター「アルクマ」  
©長野県アルクマ

## 狩猟免許試験開催のお知らせ

狩猟や有害鳥獣捕獲で、イノシシ・ニホンジカ・ハクビシン・タヌキなどを捕獲するためには狩猟免許が必要です。長野県では年4回県下各地で実施をしており、本年度最後の『狩猟免許試験』を下記日程で実施します。また、試験を受験される方を対象に、『初心者狩猟免許試験講習会』を開催します。

### ■平成28年度第4回狩猟免許試験日程

- ・試験日 平成29年2月18日（土） 松本合同庁舎、飯田合同庁舎
- ・初心者講習会 平成29年2月8日（水） 木曾合同庁舎  
2月11日（土） 松本合同庁舎、飯田合同庁舎
- ・受付期間 平成29年1月16日（月）から1月27日（金）まで

### ■免許の種類

- ・網猟免許 むそう網、はり網、つき網、なげ網
- ・わな猟免許 くくりわな、はこわな、はこおとし、囲いわな
- ・第1種銃猟免許 装薬銃（ライフル銃・散弾銃）、空気銃
- ・第2種銃猟免許 空気銃



### ■試験の内容

- ・適性試験（視力、聴力、運動能力）
- ・知識試験（鳥獣保護及び狩猟の適正化に関する法律の目的、猟具に関する知識、鳥獣に関する知識）
- ・技能試験（免許種ごとに実際に猟具を用いた試験、鳥獣の判別）

申請書類や手数料など詳しくは、長野県木曾地方事務所 林務課 林務係 電話 0264-25-2224 又は、長野県ホームページをご覧ください。

## 課長のつぶやき



木曾の山をめぐる暮らし 3 「木曾路はすべて山の中」

これは、島崎藤村の『夜明け前』冒頭の一節です。確かに流域の森林率は93%を占め、訪れる人たちも山の中を実感することでしょう。しかし、信州大学の中堀先生らは、明治初期の木祖村の民有地は74%が原野であったことを報告しています。昭和40年位まで、集落の周りには木曾馬を飼うための草原が広がっていました。

木曾の地名を見ても、藪原、野上、原野、柴原、西野、野尻など草原にちなむものが多く、草原が重要であったことが伺えます。『高冷地の地理学』によると、交通不便な地域ほど最近まで林業の成立は困難で、牧野利用が盛んであったことを指摘しています。

信濃毎日新聞の記事に、農家で家族と一緒に飼われてきた木曾馬は開田で最後の1頭とありました。里山の広大な採草地は森林に代わり、木曾谷はすべて山の中となりつつあります。 (松原)